

食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月より検査を開始しました。

平成25年4月から平成26年3月までに当所に搬入された食品の検査結果は表1、表2のとおりでした。検査の結果、放射性セシウム(Cs-134、Cs-137)が基準値を超えた検体はありませんでした。

表1 検体の種類

検体の種類	説明	検体数	検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	47	10
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	96	2
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	12	0
インターネット通販	インターネット上で流通している食品	40	16
小学校給食	主食のパン・米類及び牛乳など乳類	396	0
保育園給食	提供された1人分の給食について	24	4
まるごと累積線量調査	H25.8.5まで原則1週間分ごとに検査		
合計		615	32

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	検出検体名 []内は検出検体数	結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/kg)	
市内産農産物	いちご[1]、うど[1]、うめ[1]、えだまめ[1]、かき[1]、かぶの根[1]、カリフラワー[2]、かんしょ[1]、キウイ[1]、キャベツ[2]、きゅうり[1]、くり[1]、ごぼう[1]、こまつな[2]、小麦[1]、さといも[1]、しいたけ(生)[2]、しいたけ(乾燥)[3]、しゅんぎく[1]、だいこんの根[1]、たかな[1]、たけのこ[1]、たまねぎ[1]、とうもろこし[1]、トマト[2]、なす[1]、にがうり[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ねぎ[1]、はくさい[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、ブルーベリー[1]、ブロッコリー[2]、ほうれんそう[1]、みかん[1]、未成熟いんげん[1]、リーフレタス[1]	かき[1] かんしょ[1] くり[1] しいたけ(生)[2] しいたけ(乾燥)[3] たけのこ[1] みかん[1]	0.58 1.4 6.3 6.3、8.0 12、15、17 12 0.71	
	アカカマス[6]、アカシタビラメ[1]、イシガレイ[1]、イボダイ[3]、ウミタナゴ[3]、カナガシラ[2]、カワハギ[1]、キチヌ(キビレ)[1]、クロダイ[5]、コウイカ[1]、コショウダイ[4]、コノシロ[1]、ゴマサバ[5]、コンブ[1]、シリヤケイカ[5]、シロギス[1]、シログチ[7]、ジンドウイカ[5]、スルメイカ[1]、タチウオ[2]、チダイ[1]、テナガダコ[1]、ヒラメ[6]、ホウボウ[4]、マアジ[1]、マアナゴ[4]、マコガレイ[7]、マゴチ[3]、マサバ[2]、マルアジ[6]、ムシガレイ[1]、メイタガレイ[3]、メジナ[1]	クロダイ[1] マゴチ[1]	2.9 6.7	
	市内産水産物			
	市内産畜産物	原乳[12]	—	—

表2 検査結果(つづき)

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	検出検体名 []内は検出検体数	結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/kg)
インターネット 通販	いなご甘露煮[1]、猪肉[1]、うどん(塩蔵品)[1]、梅干[1]、おうとう[1]、 おかひじき[1]、きくらげ[1]、牛乳[5]、熊肉[1]、凍り豆腐[1]、米[1]、 こんにやく粉[1]、しいたけ[3]、自然薯[1]、そばの実[1]、大豆[1]、 たもぎ茸[1]、ドライ納豆[1]、ドレッシング[1]、梨ジャム[1]、乳児用 だし醤油[1]、蜂蜜[1]、発酵乳[1]、葉わさび[1]、ぶどうジュース[1]、 ぶなはり茸(塩蔵品)[1]、味噌[2]、目光から揚げ[1]、もも果汁入り 飲料[1]、もも酒[1]、ももジュース[1]、よもぎ[1]、わらび(塩蔵品)[1]	猪肉[1]	5.1
		梅干[1]	0.60
		熊肉[1]	3.0
		米[1]	1.0
		しいたけ[2]	7.7、71
		そばの実[1]	2.8
		たもぎ茸[1]	4.2
		ドライ納豆[1]	2.2
		ドレッシング[1]	6.1
		蜂蜜[1]	2.2
		葉わさび[1]	4.7
		目光から揚げ[1]	8.6
		もも果汁入り飲料[1]	5.6
		ももジュース[1]	5.8
よもぎ[1]	2.0		
小学校給食	牛乳[173]、米[81]、胚芽米[31]、パン[68]、麦[37]、もち米[1] ブルーベリー発酵乳[5]	—	—
保育園給食 まるごと累積線量 調査	提供給食[24]	提供給食[4]	0.0761～0.0982

【 検査研究課 微量汚染物担当 】